

寄り添い つながる 広報誌

福祉 わかやま

2024
6月号
vol.440



今月の表紙

「みんなの居場所」で
海に行ったよ！
(P2~4に関連記事)

この広報誌の発行に一部共同
募金助成金を利用しています。

特集P2-4

メタバースがもたらす可能性 ～居場所は現実空間だけ。とは限らない～



県社協の情報など
SNSで発信中



Facebook



Instagram

※写真は一部加工しています。



社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

メタバースが もたらす可能性

居場所は現実空間だけ。
とは限らない・・・

メタバースとは

インターネット環境を活用した仮想空間を指します。利用者は、アバター（仮想空間の分身）を通じて、仮想空間で対話や活動を行うことができます。

本特集では、このメタバースが“ふだんのくらし”にどのような影響をもたらすかを考えるとともに、メタバースの取組を実践される、有田市社協の宮本朋子^{みやもとともこ}氏、嶋田茜氏^{しまだあかね}、摂南大学現代社会学部講師の上野山裕士氏^{うえのやまゆうじ}にお話を伺いました。

2030年、

メタバースで暮らす？

2022年に実施されたメタバースに関するアンケート調査※1によると、「メタバースという言葉を知っている人（認知率）」は全体の83%ですが、実際に利用したことのある人（利用者率）は5%という調査結果が出ています。現在の利用者率は当時より増加していることが予想されるものの、今はまだ多くの人がメタバースに興味を示し始めている段階と言えます。

しかし、近年の通信技術の向上やコロナ禍によるリモートコミュニケーションの普及を背景に、若年層を中心に利用者が増加しており、2030年以降は多くの人々がメタバースで日常生活を行うとも言われています。

（※1）2022年12月に株式会社三菱総合研究所が実施した10,000人アンケート

広がる可能性と期待

メタバースでは、個々のアバターを作成し、仮想空間にいる人と音声チャットなどを用いてコミュニケーションを図ったり、イベントの参加など様々な活動ができることが特徴の一つです。これにより、食事と睡眠以外はメタバースでできるようになるとまで言われており、ゲームだけでなく、教育、ビジネス、アートなどの様々な分野で利用される可能性があります。

また、人種、居住地域、所得、家庭環境、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが自由に活用できるようになることから「平等な機会提供」「格差の解消」の面でも期待されています。

さらに、オンライン環境での「新たな社会参加」、アバターを用いた「多様な自己表現の場」など、私たちの“ふだんのくらし”に新しい視点をもたらし、今後の展開に大きな注目が集まっています。

有田市社協が取り組む

バーチャル居場所

有田市社協では、大学生に企画・運営の中心となってもらい、学校にいけない・いかないうち子どもが立ち寄れる居場所として「みんなの居場所@有田市」を運営しています。

この取組の一つが、「Ovice(オヴィス)」(※2)を活用したデジタル空間「バーチャル居場所」です。

(※2)「Ovice」とは、アバターで交流する2次元のバーチャル空間のサービス名で、オンラインで会話やチャットなどを用いてコミュニケーションをすることができます。

いつでも、ふらっと

立ち寄れる居場所

「バーチャル居場所」の参加者は小学生から18歳前後の子どもで、毎週金曜日の15時から2時間専用サイトを開けています。

当初は13時から開催していましたが、昼夜逆転で起きることが難しい子や、学校に行けた子も参加できると同時に時間を設定しています。

居場所では、何気ないお話をしたり、大学生が企画したゲームをするなど、カフェのような雰囲気です。参加者も運営側も楽しみながら開催しています。メタバースを始めたばかりの子も、すぐに運営側より扱いが上手になるなど、子どもの順応力にはいつも驚きます。

日によって参加人数にはばらつきがあり、誰も来ない日もあれば、予定の合間にふらっと顔を出してくれる子がいるなど様々です。しかし、継続することで、安心して立ち寄れる居場所になると思っています。

「子どものことも心配なんよ」

有田市社協では、以前から学校にいけない・いかないうち子を育てる親同士が悩みを打ち明け、つながることができ居場所を定期的に開催していました。そんな中、参加者の一人が「私はこの場があつて助かったけど、子どものことも心配なんよ」とポツリと漏らした一言がきっかけとなり、普段から地域福祉活動で協力いただいている摂南大学の上野山先生に相談し、大学生とともに作るいくつかの「子どもの居場所づくり」の話が進みました。

リアルも併せた3つの活動

まずは「(1)バーチャル居場所」と併せて、毎月第4金曜日には実際に集まり活動する「(2)ヒミツキチ」を開催していました。

くわえて、「ご飯をあまり食べていない子がいること」に気づいたことから、毎月第2土曜日に「(3)お昼ごはんの会」を開催し、一緒にご飯を作り、食べる実験の機会もつくっています。

これらの取組で、子どもたちと少しずつ関係を築き、些細なことでも日頃の思いなどを聴くことができたときには、信頼してくれていると感じ嬉しく思います。



↑ オンラインで会話を楽しむ様子。(左)宮本氏、(右)嶋田氏

←参加者の一人がイラストを描いてくれました。

メタバースを活用した居場所づくりの特長

(摂南大学現代社会学部講師 上野山裕士氏)

有田市社協と大学生有志が協働して取り組むメタバースを活用した「居場所づくり」について、これまでの活動を見守ってきた（一緒に楽しんできた）立場から、少し整理してみたいと思います。

時間、空間をこえてつながる

まず、メタバースを活用することにより、参加者とスタッフ（主に大学生）が時間、空間を超えてつながることができるようになりました。これまで、人と会うためには、学校や喫茶店、友人の家など、どこかに移動しなければなりませんでした。当然、移動には時間もかかります。たとえば私が所属する摂南大学は有田市から片道約3時間の場所にあるため、有田市で参加者と交流することも容易ではありません。それが自宅や大学からすぐに有田市にいる参加者とつながることができるのですから大変便利です。参加者の外出、移動の負担を減らすことも、「参加しやすさ」のひとつの要因になっていると考えられます。

その意味で、メタバースのおかげで定期的な「居場所づくり」が実現したと言えますし、定期的な居場所の存在は、参加者のみなさんの安心感につながるものだと思います。

「得意」なこと、みんなが主役になる

またこの活動は、参加者もスタッフも、幼少期からインターネットに日常的に触れてきた、いわゆる「デジタルネイティブ世代」です。インターネット上には無限ともいえるコンテンツが存在しているため、「自分は知っているけれど相手は知らないこと」も多々あります。たとえば、スタッフが知っていて参加者が知らないアーティストがいたり、反対に、参加者が知っていてスタッフが知らないゲーム



アプリがあつたりするわけです。さらにそれらの情報を簡単にみんなでもメタバースの強みです。「居場所」でも、スタッフと参加者が、「得意」なことを教えたり、教えられたりという双方向のコミュニケーションがよくみられます。

そういった場だからこそ、「居場所」ではいつも、「参加者」「スタッフ」という垣根をこえて、「みんなが主役」の楽しい時間を過ごしています。

対面での活動もたいせつにする

最後に忘れてはならないのが、この活動が、リアル（現地）とバーチャル（メタバース）を併用して実施しているということです。メタバースを含めたICTツールは便利なものですが、実際に会って見て、聴いて、触れて、はじめてわかること、感じることもあるはずです。有田市における居場所づくりでは、メタバースによって定期的なコミュニケーションの場を確保しつつ、月2回、一緒に料理をつくって食事をしたり、季節のイベントを一緒に楽しんだり、有田の自然と一緒に満喫したり、リアルでしかできないことをともに経験し、そこで感じた想いをみんなで共有しています。このような経験を通じて、参加者とスタッフの絆がより深まったように思います。また、リアルで活動することにより、活動の認知度が向上し、地域のさまざまな立場の方が、それぞれの方法で取組を支援して下さるようになったことも重要な点です。

有田市では、メタバースの強みを生かしつつ、現地の活動も取り入れながら「みんなが主役の居場所づくり」に取り組んでいます。みなさんの地域では、どのようにメタバースを活用できるか、ぜひ考えてみてください。



全国から想いと力を結集し令和6年能登半島地震災害 和歌山県内の社協・施設法人から継続的な支援

1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、石川県を中心に能登半島の広域において甚大な被害が発生しました。

多くの家屋が被害を受け、被災された方は避難生活を余儀なくされる中、復旧・復興に向けた生活支援に全国の社協、福祉・介護施設等から継続的な支援を行っています。

県社協においても、次のとおり災害支援にあたっています。

1 被災地災害ボランティアセンター(VC)の運営支援

石川県及び全社協から要請があり、近畿ブロック災害時相互支援協定に基づき、1月25日以降、県社協で調整の上、原則1クール6泊7日として県内の社協から1名を羽咋市災害VC(1/25~4/3)及び七尾市災害VC(4/1~)へ職員派遣を行い、災害VCの運営支援にあたっています(5/13現在28クールが活動中)。



七尾市災害VCのオリエンテーションでボランティアに丁寧に活動説明をする

2 被災地支援を目的としたボランティアバスの運行

県及び県災害VC(県社協内)では、被災者・被災地の復旧・復興を応援すべく、県内で災害ボランティアを募り、これまで4回(5/13現在)、石川県(七尾市、能登町)へボラン

ティアバスを運行、延べ79名のボランティアが被災地にて活動しました。



能登町の津波被災地域にて被災財を片付けるボランティア

3 災害派遣福祉チーム(和歌山D-WAIT)の派遣

和歌山D-WAIT(※)として派遣職員を構成、国及び全社協の要請に基づき、3月16日から4月2日にかけて4クール、計12名(1クールあたり3名、5泊6日)を石川県金沢市の1.5次避難所に派遣し、運営支援を行いました。



1.5次避難所で避難者からの相談を受ける

4 近畿社会福祉法人経営者協議会(経営協)1.5次避難所(金沢市)への介護職員等派遣

近畿経営協を通じて国及び全国経営協からの介護職員等派遣依頼に応じ、県経営協(事務局・県社協)は、2月29日から4月2日にかけて4クール、計7人(1クールあたり1~3名、5泊6日)を1.5次避難所に派遣。増加している要介護者への介護業務等を行いました。



1.5次避難所で介護にあたる応援職員

5 石川県内での緊急小口資金等特別貸付にかかる職員派遣

被災世帯への特別貸付を行うにあたり、全社協からの要請に基づき、1月26日から30日の間、県社協から輪島市社協へ1名(近畿ブロックから石川県内へ計12名)の職員派遣を行い、貸付業務の応援にあたりました。



応援に行った輪島市社協の周りでは多くの住宅が損壊、道路も凹凸が激しかった



令和5年度 赤い羽根共同募金の結果報告

令和5年度赤い羽根共同募金に、1億1,736万円の募金が寄せられました。
いただいた募金は、令和6年度に実施する県内の福祉事業や災害支援の財源として活用させていただきます。

赤い羽根共同募金 令和6年度の助成先

民間福祉施設	1,248万円
特定非営利活動法人	276万円
その他福祉関係団体	516万円
社会福祉協議会	7,097万円
チーム型募金活動団体	169万円
災害支援	272万円
災害等準備金	342万円

◎過去の活用事例は、ウェブサイトに「赤い羽根データベースはねつと」に掲載しています。



社会福祉法人和歌山県共同募金会
〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階
TEL073-435-5231 FAX073-435-5232

HP <https://www.akaihane-wakayama.or.jp/>

赤い羽根共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、様々な地域福祉の課題解決に取り組み団体を応援する「じぶんの町を良くするしくみ」です。
令和6年度も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。



赤い羽根 わかやま



メール info@akaihane-wakayama.or.jp

人も心も 寄り合うところ



蛭の会代表の幡川さん(前列左)と、取材当日そうがわ茶屋の運営にあたっていたボランティアの皆さん(後列の左右両端は日高川町社協職員)

ボランティアグループ 蛭の会 そうがわ茶屋

日高川町内で月1回の限定で営業している「そうがわ茶屋」。毎月オープンの日には町内の住民や町外からも

お客さんが訪れ、店内は賑わいを見えます。運営しているのはボランティアグループ「蛭の会」。代表の幡川芳恵さんにお話を伺いました。

お問合せ先
蛭の会 そうがわ茶屋
日高郡日高川町寒川249
営業：毎月第2火曜11時～(売り切れ次第終了)



人気メニューの猪肉どんぶり大 (550円)

食えるところがあれば人が寄り合える

町内の過疎化が深刻な課題となるなか、平成23年に県の「わかやま版 過疎集落支援総合対策」で寒川地区は過疎生活圏[※]に設定され、県の補助を受けて事業展開できるようにになりました。自分達の住む寒川地区でひとり暮らしが増え、人との関わり合いが減ったり、引きこもり等が増えたりしないか。食べたりおしゃべりできる場所があれば人も寄り合うのではないかと、この考えから、補助事業を機に当時地元にあった4つのサロングループなどで協議を重ねて蛭の会が発足、そうがわ茶屋がスタートしました。

茶屋にいつも来てくれる人が来ていない時は、近所の人に聞いたり、見に行ったり。見守りも兼ねて営業できたらと思っています。様子を聞いたりすると今度は誘い合わせてきてくれることもあります。

※過疎生活圏：昭和合併前の旧町村や中学校区等の規模

人気メニューはうどんと猪肉どんぶり

メニューは猪肉どんぶり(大550円、中350円)、うどん(350円)、おにぎり(100円)、コーヒー(100円)です。特に地元産の椎茸や柑橘を加えた風味豊かでダシの効いた味わいのうどんは好評です。また、猪肉どんぶりも地元で獲れた猪肉を使用し、獣肉独特のうま味を活かした味付けです。うどんと猪肉どんぶりをセットで食べてくれるお客様も多くいます。

楽しく、無理なく、これからも

当初は県の補助事業としてスタートしましたが、補助事業終了後は町社協からの助成により活動を継続しています。スタッフは皆ボランティアですが、忙しい中でも進んで協力しあっています。このような機会がないと会員のみならず笑ったり、楽しいこともなかなかできないので、月1回の開店の日を大切にしていきたいです。また、町社協の方も配膳や配達をサポートなど、活動を支えてくれています。メニューは少ないですが、無理して増やさなくてもいいかな、と思っています。会発足から今年で13年目になります。会員は現在12名で、当時と比べて年齢も高くなっています。若い方や定年退職を迎えた方など、入っていただけたらと募集中です。これからも体に気を付けて楽しく仲良く頑張っていきたいと願っています。

コロナ禍の3年間の休業期間を経て13年目となる今年。変わらず続けることの大切さとそのヒントを教えてくださいました。

福祉人材キャリア形成支援研修 申込受付中

研修名	開催日時	会場	受講申込期限
風通しのよい職場づくり研修	7月12日(金) 10:25~16:00	オンライン (Zoom)	6月21日(金)
介護技術研修(基礎編)	7月17日(水) 10:25~16:00	和歌山 ビッグ愛	6月26日(水)
アンガーマネジメント研修	8月8日(木) 10:25~15:30	和歌山 ビッグ愛	7月18日(木)
アサーティブコミュニケーション研修	8月16日(金) 10:25~15:30	和歌山 ビッグ愛	
介護支援専門員試験対策勉強会Ⅰ	8月20日(火)	和歌山	7月30日(火)
介護支援専門員試験対策勉強会Ⅱ	8月22日(木)	ビッグ愛	
介護支援専門員試験対策勉強会Ⅲ	8月27日(火)	オンライン (Zoom)	
	いずれも 10:25~16:00	(併用で開催)	

※研修の受講には、受講料がかかります。
 ※定員(先着)になり次第締め切ります。
 ※県社協会員は、会員価格で受講いただけます。
 ※詳細は県社協ホームページをご覧ください。
 ※感染症や自然災害等の事由によっては、中止になる場合があります。



まなぶぞう

【お問合せ先】県福祉人材センター「ハートワーク」(県社協内) TEL073-435-5210

今月の情報発信コーナー

2024夏のボランティア体験月間のご案内

7月8月は、夏の期間を利用して、多くの方々にボランティア活動を体験していただく月間です。

県内各地の福祉施設、団体、市町村社協などのご協力により、ボランティア活動をより気軽に、身近に体験できるプログラムを、本ホームページやGoogleカレンダー(QRコード)で公開予定です。(ボランティア体験プログラム企画も募集中です)

この夏、あなたもボランティア活動に参加してみませんか。

【お問合せ先】

県ボランティアセンター (県社協内)

TEL073-435-5220

E-mail : waka-vc@wakayamakenshakyo.or.jp



締結式を行いました

4月25日、わかやま市民生活協同組合と県社協は、「食品ロスの削減と資源の有効活用」及び「生活に困難を抱えた個人・世帯等への支援をはじめとする地域福祉の推進」を目的に、「和歌山県における地域福祉活動の推進に係る連携・協力に関する協定」を締結しました。



わかやま市民生活協 津田副理事長 (左)、県社協 中村常務理事(右)

令和6年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

**スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します！**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間 1年

▶ 保険金額			
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶ 年額保険料(掛金)		
	定員	基本補償(A型)
補償基本(A型)	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用(B型)	基本補償(A型)保険料	+
	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円	

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 職員等の補償
- プラン4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社)
 TEL : 03 (3349) 5137
 受付時間 : 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL : 03 (3581) 4667
 受付時間 : 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11446より抜粋)

\\ 苦情解決のツボ //

福祉サービスについて、 お困りのことはありませんか？

例えば、こんな時・・・

- 分かりやすく説明してほしい。
- 職員の態度や言葉遣いに傷ついた。
- サービス内容が事前に聞いていたことと違う。
- プライバシーをもう少し配慮してほしい。
- 大切にしていたものを捨てられた。
- 暴力や虐待を受けている。

まずは、福祉サービスを受けている 事業所にご相談ください。

福祉サービスに関する苦情は、まずは事業者段階での解決が望めます。

事業者は、「苦情受付担当者」と「苦情解決責任者」を設置し、利用者からの苦情の適切な解決に努めることになっています。

また、事業者の中には、客観性を確保するため、「第三者委員」を設置し、第三者委員が話し合いに立ち会ったり助言を行ったりする事業所もあります。

県福祉サービス運営適正化委員会にも お気軽にご相談ください。

TEL073-435-5527(苦情相談専用電話)

相談日:月曜日～金曜日(祝日等を除く)

相談時間:午前9時～午後5時

利用者と事業者との話し合いで解決しない場合や、事業者に言い出しにくいときは、直接、福祉サービス運営適正化委員会に相談することもできます。

福祉サービス運営適正化委員会では相談者と事業者の双方の話し合いによる解決をめざし、助言、相談、事情調査、あっせんなどを行います。

【お問合せ先】

県福祉サービス運営適正化委員会 TEL073-435-5527

\\ お食事・お弁当のおともに! //

多機能型事業所 陽の 梅干し



社会福祉法人 和歌山県福祉事業団 多機能型事業所 陽では、紀南の特産品である梅干しを仕入れ、パッキング・



シール貼りをして地域のファーマーズマーケット等で販売しています。

製品「陽の梅」は、はちみつ梅・しそ梅・味梅(シングルな塩味)の3種類。一番人気ははちみつ梅ですが、味梅も昔ながらの味わいが特徴で、焼酎に入れても美味しいと評判です。

どれも口に入れるとそれぞれの酸味と旨味がひろがりますので、3種の味をお楽しみください。

このほか、お手頃価格で小さめのパックやつぶれ梅の販売もしています。

詳しくは下記までお問合せください。

ホームページ



製造・販売

社会福祉法人

和歌山県福祉事業団

多機能型事業所 陽

住所 日高郡印南町大字西ノ地1290-1

TEL 0738-43-1150

県内2会場で「福祉・介護・保育の就職フェア」を開催します

令和6年度 第1回

福祉・介護・保育の就職フェアわかやま

会場 和歌山ビッグ愛1階

大ホール(和歌山市手平2-1-2)

日時 7月6日(土) 13:00～16:30(受付12:30～)

【お問合せ先】

県福祉人材センター「ハートワーク」(県社協内)

TEL073-435-5211 FAX073-435-5209

令和6年度 第1回

福祉・介護・保育のしごとフェア(田辺市)

会場 ガーデンホテルハナヨ

ハナヨアリーナ(田辺市文里2-36-40)

日時 8月3日(土) 13:00～15:00(受付12:30～)

【お問合せ先】

紀南福祉人材バンク

TEL0739-26-4918 FAX0739-26-2928



参加法人ごとにわかれ、求人担当者と求職者が直接またはオンラインで面談できます。

